

しかはま自然観察会 <h1 style="font-size: 2em;">のらえもん</h1> 『人も 自然も みんなともだち !』No. 17	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市 湖北台 2-14-7 ☎09072759890 2011, 3, 4 (金)
---	---

第17回活動「サケの放流および田んぼの生き物調べ」

・・・育てたサケ、元気に育ってほしいな！・・・

*日時：2011年2月26日（土）10:00～

*場所：都市農業公園とその下の荒川

*参加者： 家族 17 内訳 大人 18

小人 18

幼児 11

合計 47

スタッフ 4 合計 51人



○栗原北小学校2年生の親子、32名も参加してくれました。

総計 83人

*活動の様子：

気持ちの良い青空。そんな中、サケの赤ちゃんを、思い思いの容器に入れて親子が集まってきました。顔見知りに出会うと、「どれどれ・・・」と、早速サケ談議が始まりました。

まずは、「サケの一生」の紙芝居です。

お母さんお父さんサケが力を合わせて赤ちゃんを産みました。赤ちゃんを産むと、お母さんお父さんサケは死んでしまいます。死んで、赤ちゃんのためのエサ（プランクトン）を育てるためでした。そのエサを食べながら、赤ちゃんサケは大きく成長しました。そして川を下り、広い広い海に出ていきました。広い海では、たくさんのエサをお腹いっぱい食べて、どんどん大きく成長しました。4年の年月が過ぎました。生まれ故郷に帰る日が来たのです。70センチにも成長したサケは、エサも食べず3メートルの滝も登り、お母さんお父さんが赤ちゃんを産んだ場所を目指して、ひたすら登り続けるのでした。

「うんうん」とうなずきながら聞いてくれる子、お母さんお父さんが「死ぬ」ことに、びっくりする子。

いよいよ放流に向けて、出発です。

イクラのような受精卵。その生命を育むために、家族でたくさんのドラマが生まれたようです。家族にドラマを残して、サケの赤ちゃんは荒川から旅立って行きました。

○全部死んでしまったけど、と参加した家族。「放流の様子を見たくて・・・」

○生き残ったたった1匹を、大切そうに、大きな水槽にポンプまでつけて持ってきたお父さんと息子。「ちょっと、オーバーかなと思ったけど・・・」

○「5匹とも、全部、元気ですよ」

○「どんどん死んで、最後に残ったものが、この1匹なんです」

- 大切そうに、水槽をかかえてくる男の子。
 - ずっと育ててきたのでかわいくなり、「放流したくない」といって参加しなかった子。
 - 放流してから、ずっと川を見つめている子。「あそこに、1匹、いる！」と叫んでいました。
 - 「当日は参加できませんが、ちがう日に放してもいいんですか？」
 - 0歳の子を背負って、家族そろって参加してくれた親子。きっと、サケの成長を、我が子の成長と重ねているのかもしれない。
 - バギーを押して、未就学児ばかり3人を連れてきてくれたお母さん。3人のお子さん、きっと、心やさしくたくましく育ててくれることでしょう。
 - 放流するお子さんの姿を、いっしょうけんめいにカメラにおさめているお母さんお父さん。ステキな光景ですネ……。
 - 川岸の砂場に飛び降りたお父さん。安全を確かめたのでした。それから、我が子に飛び降りるように促していました。子育て中の野鳥の親の姿とダブリました。
 - 「バケツに卵を入れておいたら、おばあちゃんが気付かずに、すてちゃった！」と、あわてて電話をくれたお母さん。
 - 「染剤のついた手で、さわっちゃったけど、大丈夫ですか？」と、心配そうに相談の電話をくれた2年生の女の子。
- ドラマは、生まれました。海に、川に、異変がない限り、4年後には大きく成長したサケが、再び姿を見せてくれることでしょう。今度は、サケがドラマを持って……。

放流の後、残った家族で、川に向かって石投げをして遊びました。石で水面を、何回すべらせられるかを競い合いました。ボットンと、1回で水柱を上げてしまうことがほとんどでした。が、石をたくさん集めて運ぶ子、投げることにしても興味を持った子、何回水面をすべらせるかと大声をあげる子、真剣な顔、笑う顔、声を上げる子。たった1個の石が、子どもたちにたくさんの表現を与えてくれました。

今年のサケの育ち方は……

「死ぬのが多くて……」「始めは元気に育っていたんですが、放流が近づくと死ぬものがでてきました……」と、育て方の難しさの声が多く寄せられました。

のらえもんが育てた3つの水槽の中で、一匹も死ななかつた水槽がありました。その水槽は、小石と大きい石を放り込んだだけの水槽でした。ポンプをつけ、水面には水草を浮かべておきました。受精卵を入れておくと、孵化するころに、赤ちゃんが一匹も見えなくなりました。大きい石の隙間にいることを確認しました。やがて、ある日突然、悠々と泳いでいるのです。深い所にたくさんの魚が集まっている様子と同じでした。パーマークをつけて層をなし、毅然とした顔つきで泳いでいる姿は、見あきることはありませんでした。

次回の飼い方は、小石と大きい石をいれるようにしてみましょう。石からは、魚が丈夫に育つための何かが出ているのかもしれないね。

